釧路江南高校の３年生が参加する「教員基礎探究」の４回目が実施されました

◆　◆　◆

第４回の教員基礎探究では，次回の阿寒湖義務教育学校への実習に向けた準備を進めました。

１時間目は，前回の附属釧路義務教育学校への実習をふり返りました（写真１）。実習生同士で異なる目標や視点を持ち，学校や教師・子どもを観察していたこと，授業準備や授業実践に取り組んでいたことに気づき，自身の次なる観察・実践の目標・視点を見出している姿が確認されました。とある実習生は，泣いている３年生の児童に対する現職教員の対応を興味深く観察したようです。その場ですぐに児童に声をかけるわけではなく，少し時間をとってから児童に近づき「どうして欲しい？」「保健室に行くかい？」と声をかけていたそうです。児童は「行かない」と答え，泣き止み，次の学習に向かって行ったようです。こうしたエピソードを通して，当該実習生は「昨年度の教員基礎の観察実習でも泣いている児童への対応に注目し，学校の先生はトラブルに即時に介入し，児童に寄り添う存在と考察していたけれど，今回の事例からは，トラブル発生時にあえて状況を見守り，適切なタイミングで介入することで，児童の自立性も重視した指導をすることも必要なのだと『先生』像が変わりました」と学びを共有していました。昨年度の「教員基礎」から今年度の「教員基礎探究」へ，まさに「探究」の深さが出始めている証拠として，大学教員側もその成長を観察しています。

２時間目は，次回の阿寒義務教育学校への実習に向けて，異学年交流のレクリエーションのアイデア出しをしました（写真２）。アイデア出しの段階では，釧路校の附属図書館を活用し，年少の子どもたちが活動できる遊びが載っている図書を探し，候補をリストアップしていました。その中で，「体育館で１年生～４年生が楽しく，他の学年と交流できる遊び」というレクリエーションの目的に沿う活動を選択し，結果として①「グループ分け（二人組，四人組・・・十人組とグループを作らせて，その後の活動チームを最終的に２つに分けるための導入アクティビティ）」，②「ボール運び（ボールを体の横，頭の上，股下で渡し，体育館の端まで先に回せたチームが勝利）」，③「鬼ごっこ（線鬼・バナナ鬼・鎖鬼：１年生でもわかるルールと助け合いが自然と起こる鬼ごっことして）」，④「落ちた落ちたゲーム（時間調整でできそうなものとして）」という４つの活動を 50 分で実施する計画を立てました。

３時間目は，簡単な模擬授業に取り組みました（写真３）。活動目標の説明，各活動のルール説明やデモンストレーション，具体的な指示の出し方や授業者側の協力体制などをシミュレーションしながら，不足点や改善点を主担当の星裕先生，副担当の玉井慎也先生から助言してもらい，今後のさらなる準備のポイントにしました。

（文責・写真撮影：釧路校・講師　玉井慎也）

写真１：【ふり返り】
学校実習１のエピソードを共有しよう！

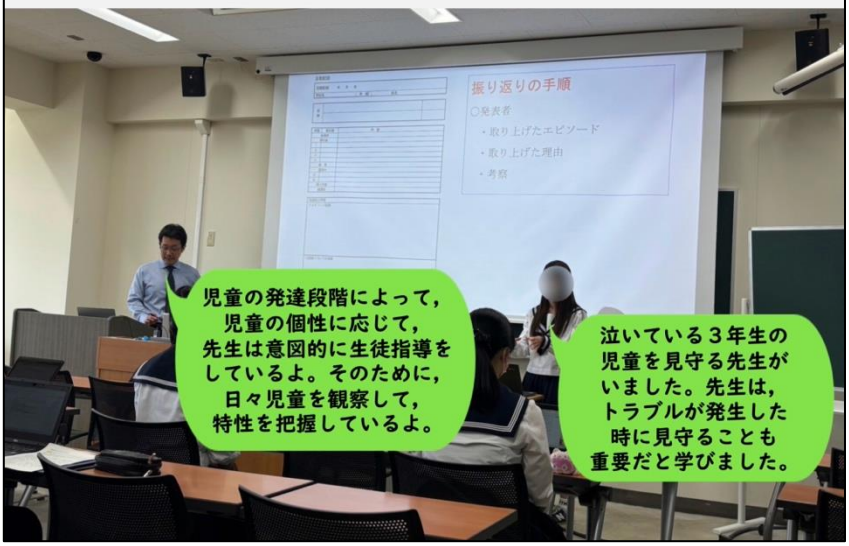

写真２：【釧路校の図書館でのアイデア出し】
図書やホワイトボードを活用してレクを計画しよう！
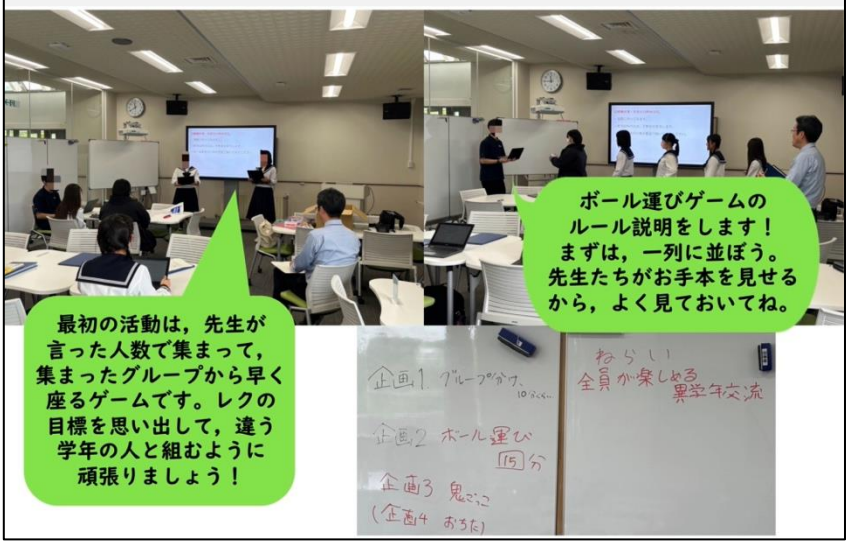
写真３：【模擬授業】
活動の説明や実演をやってみよう！